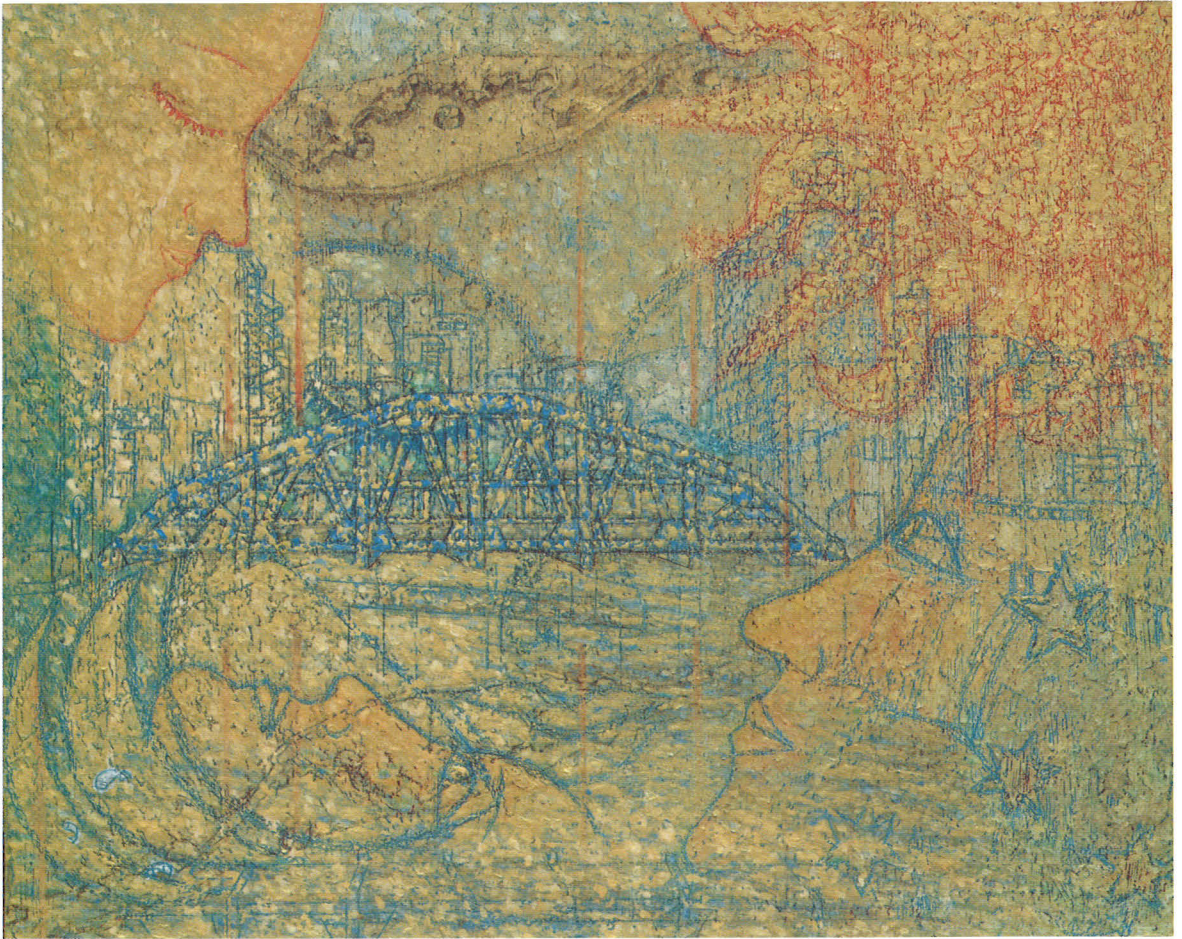


文化高知

'99年7月 NO.90



「青い橋の記憶 No.2」 山本 恭子

〈もくじ〉

歴史館への誘い	坂本正夫	2
「賢兄愚弟」-無名の物書きの世界を生きて	細川廣次	3
呼吸する図書館	古川佳代子	4~5
高知城下に復原された土佐藩上土屋敷	後藤孝一	6~7
回想……日和崎尊夫君のこと(上)	田中白歩	8~9
鏡村川口橋, 高知, 日本「外人の足で歩む」③	マイケル・カーン	10~11
山はスキーに温泉・キノコ(4)~ユニークな湯に行く②	大森義彦	12
ニューヨーク通信②芸術と教育のあいだで	奥山 緑	13
風俗歳時記・風伯		14~15

(財) 高知市文化振興事業団

歴史館への誘い

坂本正夫

県民の文化活動の拠点として、多くの人がびとに活用していただくための施設—高知県立歴史民俗資料館（通称・歴史館）が南国市の岡豊山に開館したのは平成三年五月のことでした。

私は、この歴史館の創設時に文化振興専門者会議のメンバーとして関わり、その後も注目してきました。開館してから八年間、前館長の吉村淑甫さんは非常にいい方向で館を引っ張ってきたと思います。私も吉村さんの路線を引き継いで、さらに発展させていきたいと考えております。歴史館のあり方については、いろいろな面がありますが、ひとつは土佐の歴史・考古・民俗を研究し、これらに関連する諸資料を収集・保存して後世に伝えていく施設であるということだと思います。学芸員を中心にアカデミックな研究をして、県民の財産をつくり、これを保存していくので

す。第二には、そうした研究の成果を展示や紀要、講座、講演などによって県民の皆さまにお返ししていくことです。

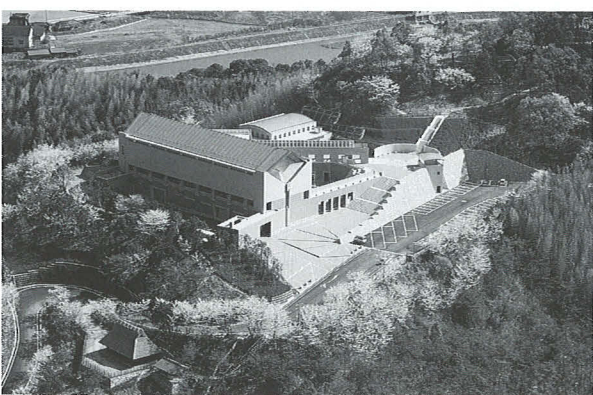
第三は県民の文化活動の拠点のひとつの施設である、ということだと思います。歴史館は、私たちが土佐の過去を知ることによって、現在の生活を見直し、未来を考えるための施設なので、来場をできるだけ多くの皆さんに来ていただきたいのです。特に次代を担う児童・生徒諸君に来てほしいのですが、そのため学校の先生方にもっと館を利用してもらいたいと思います。一人でも多くの方々に来ていただくため、分かりやすい展示や解説を心掛け、「来てよかった。また行きたい」と思われるサービスを中心掛けたいと思います。

歴史館の展示は常設展示と企画展示の二つからなっていますが、常設

展示には総合展示室と民俗展示室があります。

総合展示室では土佐の歴史を原始古代から中世、近世、近・現代と時代順に展示しています。その中でも、たとえば田村遺跡群出土の水田跡、長宗我部元親関係資料、土佐藩主山内家の家宝、坂本龍馬、武市半平太など維新関係資料、自由民権運動など土佐の歴史の歩みが実物やレプリカ、映像などで紹介されています。

民俗展示室は土佐の生活文化を海と山、野と鍛冶の四つのテーマに分



長宗我部氏の居城跡に建つ県立歴史民俗資料館

け、漁民や山の民、農民、職人などの生活の様子を、誰にでも分かるように実物や模型で紹介しています。

また、企画展示室では学芸員の調査研究をもとに年に三〜四回テーマを定めた企画展を開催しています。今後の予定としては「土佐藩主の装い」（八月六日〜九月十九日）、「道具が語る食の文化」（十月八日〜十一月五日）、「記された歴史のメッセージ」（来年三月十七日〜五月二十一日）が企画されており。

このほか「子ども歴史教室」や「体験学習講座」「史跡めぐり」、学芸員による講座や専門家を招いての講演会なども行われております。

歴史館のある岡豊山は長宗我部氏の居城跡ですが、礎石建物跡、土塁、石垣など城跡の遺構を保存復元し、今は散策しながら学習できる歴史公園として整備されています。近くには古墳や国府跡、国分寺などがあります。公園内では四季の草花を楽しめますが、山の上から見る高知平野の四季の景観には、また格別な風情があります。

県民の皆さん、是非一度岡豊山の歴史館へおいでください。お待ちしております。

（さかもとまさお・県立歴史民俗資料館長）

賢兄愚弟

—無名の物書きの世界を生きて

細川廣次

およそ郷を離れた者を終生苛み続けるのは、錦などはむろん及びもつかないにしても、せめて少年時代を共にした友人たちが大笑いしてくれするような呆けたみやげ話の一つや二つ出てくるような人生を生きなければ

ば生きたことにはならないのではないかと強迫観念に違いない。

くわえて小生のばあい、幼いころに亡くした父親が、土佐の人物を語る書物の一隅をいまだに汚している典型的な土佐人的気質を持った明治人的大ほら吹きで、高校時代、講演にやってきた故・川村源七県立図書館長が「どうやら次男が在籍中らしいが、そのほらに吹かれて今日の私があるのだ」などと余計な話をしたりするものだからなおさらだった。

幸い長男である兄、藤次はプレッシャーにもめげず親父の跡を継いで数学者となり、数学辞典に載るような発見もして来春には高知に帰ってリタイアするというから、兄弟としては訳もなくホッとしているが、そんな賢兄あれば次男は愚弟というのが世の習い。

なにが愚といつてそんな親兄弟と互して生きるには尋常の道では不可



父親藤右衛門さんのことが書かれている「土佐人物ものがたり」（高知新聞社発行）と著書

能と、己の才も省みず出たとこ勝負のフリーターを志して魑魅魍魎のメガロポリス東京に徒手空拳で飛び込んだ辺りがすでに愚の極みと六十三歳、いまさら反省してどうなるものでもないが、振り返れば結構愉快な道筋ではあった。

小生が衣食を得る手段としてもぐり込んだのはマスメディアの世界、「女性自身」という週刊誌のアンカーという仕事だった。アンカーというのはメ切前夜の編集室で待機し、数人の取材記者が集めてきた情報を時間と競争しながらまとめて記事にする仕事だが、それを十年。

それからゴーストライターとして話の面白いが自分では書けない、あるいは書くヒマがない（著者）の話の聞き、「著者らしい」文章に仕上げる仕事に手を染めたのだが、これは個人的に興味がある問題について専門家の話を微に入り細に穿って聞けるといふ意味ではじつに豊穣な稔りのある仕事だった。それというのは小生の野心はこの世に生まれて疑問に思ったことすべてについて納得のいく答えが得たいというものだったのだが、この仕事のおかげでその大半を解消することができたからだ。で、秘かに自己満足していることをいえばゴーストライターとい

う影武者の地位を引き上げたことだ。小生がはじめたころのこの仕事の評価は極めて低く、著者が得る一〇%の印税から二%を戴くのがせいぜい。しかし本が売れるか売れないかはゴーストの腕次第ということ編集者に納得させ、いまや出版界ではプロフェッショナルなら四%が常識というところまでボトムアップすることに貢献できたことだ。

周知のように雑誌や新聞の紙面を埋めているのは有名な作家だけではない。その大半は無署名で記事を書いている「物書き」としか呼びやうのない書き手によって埋められている。そして出版社が集中する東京には無数の無名の物書きがおり、その状況は物を書く道具が原稿用紙からパソコンへ、媒体が活字から電子へと変わっても文字がなくなるなら限り、変わることはないだろうし、小生もまたやめるつもりはない。

そんなわけだからみやげ話もできずに都会の藻屑となる確率は極めて高い。しかし愚弟ではあれ、先の強迫観念を忘れたわけではなく、それがよきプレッシャーとなつて今日があることだけはこの場を借りて伝えさせていたがたい。

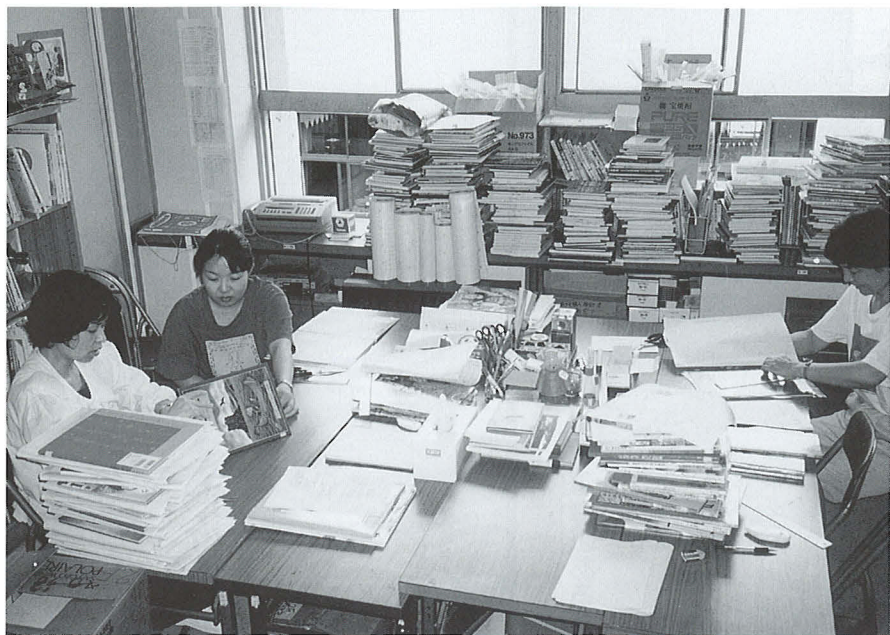
（ほそかわひろつぐ・フリーライター・南国市出身）

全国でもめずらしいこの本を中心とした専門の図書館「高知こどもの図書館」が今年の秋、永国寺町（旧消費生活センター）に誕生します。建物は高知県が提供し、運営はNPO法人（申請中）高知こどもの図書館が行うという今までに類のない公設民営方式の図書館です。図書館ですから貸し出しや閲覧などは当然無料ですが、資料費や人件費その他の運営資金は、賛同してくださる方たちからの賛助会費や寄付金、それに自分たちで企画運営する事業から得る収入でまかなう予定です。



三名の職員で本の整理と貸出用の装備を精力的に進めています。たくさんの方たちの協力のおかげで、この二カ月間で約二千冊の絵本の装備をすることができました。

ところで、本が図書館の本棚に並べられるまでに、どれだけの手間が



す。利益を生みださない図書館を民間で運営するのは本当に大変だけれど、民間ならではのフットワークのよさを活かした「呼吸する図書館」にしたいと思っています。

本当のことをいうと「高知こどもの図書館をつくる会」が発足した四年前には、まさか自分がこういった形で図書館づくりに関わっていくことになるとは予想もしていませんでした。

県立図書館の新築移転計画が発表されたとき、あの木に囲まれたゆつたりとした空間を、こどもたちが自由に使える自分たちの場所だと思えるものとして残して欲しい、それに「こどもの図書館」がふさわしいのではないかと考えて活動をはじめ

呼吸する図書館

古川佳代子

たのです。けれども県立図書館の移転は当初の計画よりも先に延びてしまい、また移転後の建物をこどもの図書館にすることは無理らしいことも、運動を続けるうちに分かってきました。

次の世代へ手渡したい本の用意はすでにあるし、こどもの本とこどもの文化を通じて長い時間をかけて紡いできた人たちのつながりという財産もある。これらをなんとか活かさないかしら？ どういうふうに展開させていくのがベストの方法なのだろう。なかなか答えは見つかりません。

そういったとき高知県の健康福祉部「こども課」がわたしたちの活動を受けとめてくれました。何度も話

掛けられているかご存じでしょうか？ まず一冊ごとに書名・著者名・出版社名・発行年・価格・分類番号といった本の戸籍ともいべき事柄を記載したカードを作ります。このカードに誤りや書き抜かりがなければチェックしたら、図書館名の判

と蔵書印を本に捺し、蔵書番号をカードと本の両方にふつていきます。

次にブックポケットと返却日を記入するための用紙（デイトスリップ）を本の内側に貼りつけます。そして



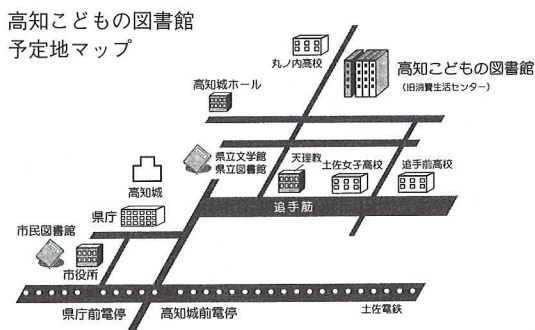
ボランティアの方たちと一緒に貸出用の本の整備が進む（上）
「ブックカー」や「カード書き」が終わり、書棚に整然と本が並ぶ（下）

貸出用の書名カードを作りブックポケットに納め、背表紙に分類番号を書いた小さなラベルを貼ります。最後に透明の接着フィルム（ブックカー）で本全体をくるみます。これでやっと図書館の本として書架に並べられるようになるのです。表紙の色や紙質に手触り、見返しイラスト、その他諸々から一つの世界を作り上げている本に押し印し、ブックポケットを貼ってせっかくのイラストを隠してしまいブックカーでくるんで質感を損なってしまうのは、本好きにはなかなか辛い仕事です。けれどもそうすることで、数人にしか読んでもらえない本が数百人のこどもたちにも手渡せる手段を得た、丈夫で長持ちする図書館の本に変身するのです。たくさんさんのこどもたちに読んでもら

し合った結果、ついにNPO法人が運営するという新しいスタイルの「こどもの図書館」が誕生することになったのです。

今年11月オープンへ

十一月の開館をめざして今年四月「高知こどもの図書館をつくる会」は「高知こどもの図書館準備室」へと移行し、NPO法人格取得申請もしました。現在の最大の課題は開架用の本約一万冊（蔵書数は約二万冊）の装備です。大原町の高知県教育センター分館（旧保育短大）の二階の事務所で、ボランティアの方たちと



うから許してね、と本に語りかけ、自分を納得させながらの作業です。業者に委託すれば心は痛まず時間も短縮されるかもしれないけれど、まず自分たちがその本を知らないことにはこどもたちに自信をもって手渡せるはずありません。装備する本の向こうにいるこどもたちを思いながらの作業はやはり嬉しいものです。

資金作りの大変さや、提出しなくてはならない書類の多さとうんざりする時もあります。けれども、どの仕事もこどもたちへとつながっているのですから、へこたれている暇はありません。こどもが本と遊び、人と出会い、ゆったりと過ごせる居心地の良い図書館を作りたいと思っています。開館まであと四カ月となりました。どうか楽しみにお待ちください。

「高知こどもの図書館準備室」は、平日の午前九時から午後五時まで開室しています。関心のある方はどうか一度足を運んでみてください。連絡は、高知市大原町132番地高知県教育センター分館気付（電話088-8333-2920までどうぞ。ふるかわかよこ・高知こどもの図書館準備室スタッフ）

高知城下に復原された 土佐藩上士屋敷

後藤 孝一

重厚感ある長屋門



復原された長屋門。武者窓、与力窓、突き上げ窓がある

高知のお城下江ノ口川沿いに、「大川筋の武家屋敷」と書かれた看板を掲げた古びた長屋門が、静かに建っていた。しかし、時の流れが止まったようなその一角は、見るものによっては、何かを語りかけてくるような雰囲気を感じられた。

長屋門とは、文字通り棟割り長屋の一部が門となっているもので、長屋は門番や屋敷の用人達の住まいとなっていた。住まいといっても、ここでは三畳一間の寝起きするだけの空間だった。

かつて長屋門は、武家にだけ許さ



長屋門をくぐると大きなソテツがあり築地塀に沿っていくと玄関がある

れた門であり、藩政時代は、武家の格式や石高によって、門の形や大きさなどに、細かい取り決めや制限を設けていたのである。

少し波打った屋根は、長屋門には不釣り合いなセメント製の洋瓦が葺かれていたが、すっかり黒ずんでしまい、それはまたそれで、不思議な重厚感を感じられた。鉄鉾や金物が赤さびた門扉は、閉ざされたままだったが、脇の潜り戸を抜けて、屋敷内に入ることができた。

平成九年ごろまで、この長屋門には住人がいたが、主屋には住む人もなく、物音一つせずシンと静まりかえっていた。門と玄関との間には、訪れる人の行く手をはばむかのようになり、大きなソテツが仁王立ちの姿で葉を茂らし、足元にはハイビヤクシンが、これも足の踏み場もないくらいに地面をおおい、まるで痛み始め

た屋敷を、自然が包み隠しているような勢いを感じた。
砂利敷きの通路の左手には、漆喰塗りの築地塀が目の高さで続き、その奥に主屋の式台玄関が見え隠れしていた。一間半の式台には、質素だが黒漆の舞良戸が四枚たて込められ、玄関屋根の梁に打たれた蝶型の釘隠しなどが、武家屋敷の存在を主張していたのである。

唯一残る武家屋敷

私が、初めてこの屋敷を訪ねたときの印象は、このようなものであった。後で知ったことだが、本県出身の女流作家である大原富枝さんが、多感な青春時代の一時期、この屋敷の主屋に下宿していたという。郷里本山町を離れ、高知の城下での新鮮な生活体験が、彼女のエッセーに綴られている。

この屋敷から発する語りかけには、市民による武家屋敷保存会を結成させるまでの力があつたようだ。しかもそのきっかけは、当時、土佐藩の経済史を研究するため、はるばるアメリカから来高し、高知大に籍を置きながら研究をしていたロバート・ルーク氏（現カリフォルニア州立大学教授）の心をとらえた。彼は通学

の途中に、この屋敷の存在を知り、高知城下に唯一残る武家屋敷として、その存在価値を説いたという。

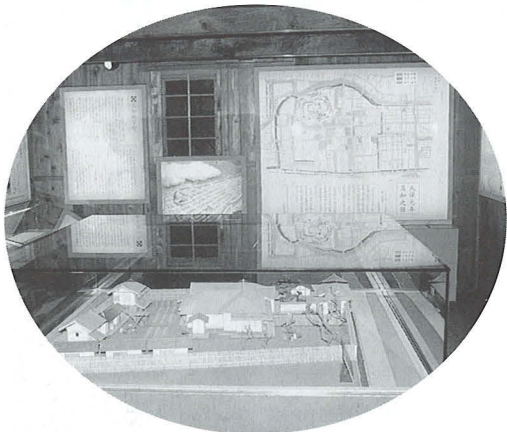
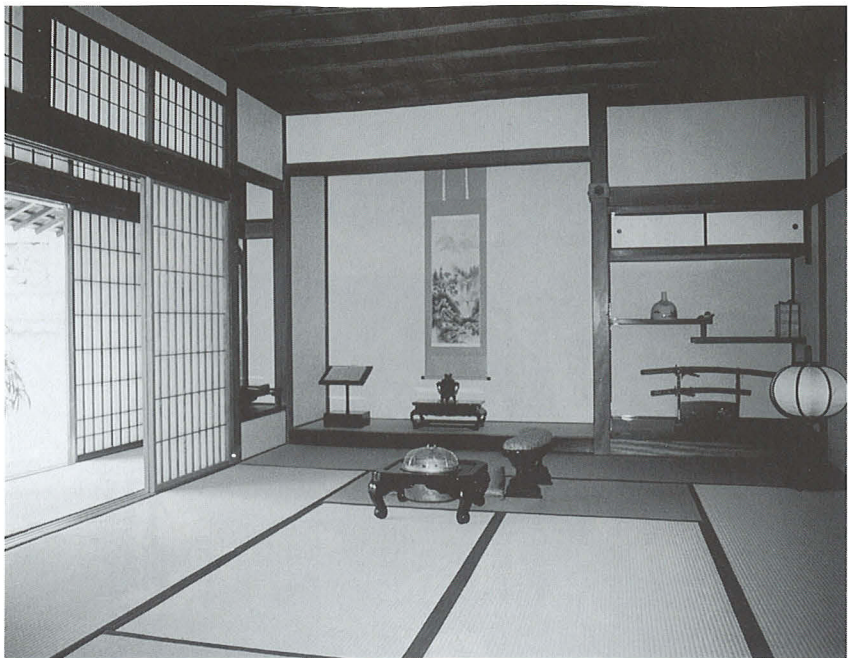
彼の提唱により、建築家から旅館の女将さんまでを巻き込んだ、地道だが粘り強い市民運動が、足かけ十年もの間、継続してきたのである。

私と武家屋敷の関わりは、(社)高知

県建築士会が、高知市教育委員会から委託を受けた調査に参加したことからさらに深まった。

調査を進める中で、藩政時代の高知廓中（高知の城下域）の古図をいろいろ比較してみた。この屋敷は、土佐藩上士手嶋家の武家屋敷であったことが知られている。古図からは、

付け書院のある座敷。土佐の武家住宅の典型的な造りとなっている（上）。北側の資料館には、復原工事の工程や天保元年の高知城下町の絵図などが展示されている（左）



延享三年（一七四六）のものに、はじめて大川筋に手嶋の名を発見することができた。
この調査では、結論として「市内に唯一残る藩政末期の中級武士の特徴を示す建物」と評価した。これを受けてこの武家屋敷は、平成八年に高知市の保護有形文化財に指定され、復原工事はじまった。工事中に長屋門から、安政二年（一八五五）の墨書きが発見された。安政の大地震（一八五四）の後、大幅な改修工事が入ったことが想像される。

資料館として公開

今年の四月に二年がかりでその工事も完了し、「高知市大川筋武家屋敷資料館」として無料公開されている。工事のゴールサインを出した、松尾市長をはじめ、地権者、工事関係者の方々には、心から敬意を表すものである。

現在、武家屋敷には、当時の武家の生活が体験できるように、生活用品があわせて展示され、敷地内には寄贈を受けた土蔵が、資料館として整備されている。藩政時代の武家の生活が、屋敷の建物と同時に体験できる。

今後、さらに武家社会に関する時代考証を進め、できるだけ自給自足を目指した工夫としての屋敷内の有用木（柿、柑橘類、竹等）の植栽、廃棄物がほとんど出なかつた自然循環式の生活が理解できる仕組み（井戸水、排水、下肥）の説明、手嶋家と知行地（南国市明見）の紹介（手嶋家歴代の墓、石碑がある）、茶道とゆかりのあつた手嶋家にちなんだお茶会の開催等さらなる有効活用の充実に望みたい。

高知市一宮には、国の重文指定を受けた郷土屋敷「関川家住宅」がある。土佐藩の上士、郷士の屋敷の比較ができ、興味深いものがある。そして、観光ボランティアガイドの案内にも積極的に盛り込んでもらって、高知城下に残る藩政時代の遺構との線的なつながりを強化し、有機的な高知城下の紹介を実現してもらいたいものである。

（ごとうこういち・高知県建築士会編集委員・高知県建築課主任）

回想……日和崎尊夫君のこと(上)

田中白歩

中学校時代

日和崎尊夫の名前を初めて知ったのは彼が中学一年から二年に進級する学級編成の時である。以来僕は彼が卒業するまでの二年間、学級担任と生徒としての縁を結ぶのである。新学年の学級編成が行われる時のこと、前学年の学級担任から第一番の要注意人物として日和崎君につい



文芸同人誌「潜航」の創刊号（昭和41年）を飾った日和崎氏の版画

棟方志功来高

尊夫が二年の時だったと思う。棟方志功が学校へ来て版画の講習をしてくれたことがあった。棟方志功と親交のあった吉本青司さんの肝入りで五、六名の教師が参加した。志功はまだ無名の一版画家と一緒に参加



市内の喫茶店で
(撮影：山崎堯敏氏)

日和崎尊夫氏略歴

昭和16年(1941)生まれ。城西中学校時代はサッカー部員として活躍。油絵を描き始める。西高校ではサッカー部、文芸部、美術部の部長を務め、昭和34年(1959)武蔵野美術大学西洋画専攻(夜間部)入学。同大学卒業後、昭和39年(1964)木口木版を始め、日本では衰退していた木口木版を独学で蘇らせる。

日本版画協会展新人賞、同協会賞、第2回フィレンツェ国際版画ビエンナーレ展金賞など多数受賞。昭和49年(1974)文化庁派遣芸術家在外研修員としてヨーロッパに滞在。その後、高知版画協会、高知国際版画トリエンナーレ展の創設に携わる。平成4年(1992)食道ガンのため死去。50歳。

ての連絡があった。彼にとつてはあまり名譽な話ではないが、もう時効になったことではあるし、彼のその後の成長ぶりからすればむしろ腕白時代の逸話として彼も許してくれるであろうと思うので書くことにする。要注意人物として拳がった点は全体に落ち着きがなく少し目を離れた隙にチョイとしたいたずらをする。一年生の夏休みに花火を解体して火薬を集めて遊んでいたところ、瓶が爆発して手に大怪我をした。そうしたいはずの絶えぬ子どもであるから気をつけるようにとのことであつた。

しかし、そんなことは杞憂であつたかのように、問題らしい問題を起こすこともなく表面は過ぎていった。ただ、彼が三年生の時だつたと思う。彼には珍しく三日ぐらい欠席をしたことがあつた。しかも無断欠席である。家族からの連絡もない。友

した同僚も彼のことは全く知らなかつた。

あまり風采のあがらないおっさんが、強度の近眼を版木にこすりつけるようにして下書きもせず、全身を投入して眼にもとまらぬ速さで刀を入れて行く姿に私はえらく感動したことであつた。「あの姿、あの刀の

達に聞いても分からないので早速家庭訪問をする。第六小学校の近くの小さい路地の奥まったところが彼の家であつた。静まり返つた硝子戸の中に向かって「日和崎くん……」と声をかけたが返事が無い。しかし、中には人が居ると直感した。

「日和崎くん……」。少し間をおいて再度呼ぶと、
「……ハイ。……」
今度は硝子戸が開いて中から彼が一丈はにかんだいたずらっぽい顔を出した。

「どうせ……悪うないかえ……」
「悪いことありません」
「明日は出て来いよ。みんなも心配しよるき……」
翌日の登校を約束して別れたが翌日は約束通り何事も無かつた顔をして出席していてホツとしたことであつた。

流れ、あの息はまさに書である」と。仕事の上では手法の違う彼らであるから、接点はないかもしれないが、尊夫がこの時志功の版画を見たと思えばどうであつただろうとふと考えることがある。
世界の棟方志功が度々高知に来ていたこと、そして一中学校の教室でボランティアの実技指導をしてくれたことなど知る人も少なくなつてしまつた。

高校入試

彼が学校の勉強を最も熱心にしたのは三年の二学期頃で高校の入試が具体化した頃からであろう。そ



高校1年のとき友人の徳橋昌夫氏と(左が日和崎氏)

後日彼がこの話を持ち出して、「先生があの時来てくれたが、ボクが何をしようたか分かつたかエ?」
「分かんよ」
「ウイスキーを一人で飲みよつたぜ」
「……」

教師としてもこれくらいのものでウツカリして抜けた教師であつた。彼が何で欠席したか、なぜ一人で酒を飲まねばならなかつたか、どんな理由があつたか、幼い心にどんな嵐が吹いていたか、そこまで立ち入る力量の無い教師であつた。

れまではクラブ活動のサッカーで熱心に汗を流していた。

当時、高校全員入学問題の嵐が学園に吹き荒れていて三年生は目前の高校入試のことについて頭を悩ましていた時である。

彼は初め普通校を希望していたが願書提出直前になって工業高校へ進学したいと言つて来た。その時分中学生の進学一番人気は工業校であつたから彼もそれに従つたと思われが競争率は一番激しかった。高校入学は中学校時の成績による無試験入学であつたから僕は率直に事情を説明して、

「今の状態では入学は駄目だろうと思う」と言うと、
「高知工業でなければ嫌だ」と言つていた。彼の母親も二、三回学校へ足を運んでくれてこの問題について話し合つた。

「お金のことは何でもするから尊夫の希望をかなえさせたい」と夜のお店を手広く経営している彼女は言つた。こんなことがあつてからだと思ふ。彼の猛勉強が始まつたのは。しかし、この種の勉強は長く続かなかつたようである。

結局彼は当時開校したばかりの県立西高校へ入学した。
(たなかはくほ・墨線美術協会同人)

“鏡村川口橋、高知、日本”

「外人」の足で歩む Part 3

by マイケル・カーン



コンニャクの花。高さが173センチもある

杉本嘉福さん・艶子さんの家を訪ねたのは、コンニャクの花がきつかけだった。

「コンニャクの花が咲いたけど、こんなに大きなのは見たことない。見に来なかね」と、電話で艶子さん。「あつ、そう……?」。そうか、コンニャクって花が咲くもんだったのか。翌日、早速鏡村の上大利へ向かった。艶子さんの家に下りていく道のそばに目印のバケツが置かれていたので、家はすぐに見つかった。庭の中には、身長百七十三センチの立派な花が咲いていた。艶子さん(百五十センチ)に並んでもらって写真を撮ってから、嘉福さんと艶子さんとのコンニャク話が始まった。

この花を咲かせたのは、四きぐら

いのコンニャク芋だった。艶子さんは、去年の秋、その花を咲かせた芋を掘り起こして日曜市へ持っていき、芋の前に「私はコンニャクの原料の芋です。今年で六歳になります」という看板を置いた。

コンニャク芋を初めて見る人が結構いて、「あれ、これは何じゃろう」とのぞきこむ人が多かった。岡山からのある観光客は感動して、「この芋の絵を描きたいので、貸してください。来週の日曜市に必ず返しに来ますから」と芋を借りていった。その約束は一週間後無事果たされた。

コンニャクづくりの時期が終わわり、艶子さんは六歳のその展示芋を、土の中へ戻した。

迎えている。

何回か日曜市の彼らの店に行ったら、六月の初めの頃は梅、さらには梅。

「梅はもういやになるばあ」と艶子さん。お客さんは自分で漬けるため梅を買っていくお年寄りが多い。「でも若者はよう漬けんき、漬けてちょうだい、と言われるね」。

ある日曜日、艶子さんの店でじっくり座っていると、「梅のエキスはない?」と聞く人が何人もいた。最近、梅のエキスがテレビに出たようだ。動脈にいいとか、そういう健康効果をPRした番組だったと思うが、それ以来、艶子さんの店に梅のエキスはないか、という問い合わせが急増した。

艶子さんは梅のエキスを作ったり、売ったりすることは特になし。だが、「子どもの頃はどこにでも梅のエキスがあつて、学校でお腹が痛いときに先生によくぬめさせられた。よう効いたけれど、作るの大変なんよね」。

「エキスを作るにはたくさん梅をずーっと煮詰めないかんで、時間的にも、労力的にも、簡単にできるもんじゃない」と言っていたが、次の週、彼女の店に行ったら、梅の

エキスが八本置いてあった。「ちょっと作ってみたがよ。一日中かかって、十五きの梅で八本できた」と艶子さん。なぜ作ったのかを聞いてみると、「それはお客さんがあんまり言うき、ほら」。

コンニャクを作ることができる人は少なくなってきたとか、若者は梅をよう漬けんかったとか、日本の独特の知識はどこにいつているのかな、と心配することもある反面、日曜市の雰囲気はますます大好きになってしまふ。売る人と買う人のやりとりが非常に面白く、自動販売機とのやりとりとは随分違う。

ちなみに、コンニャクの花が出るのは芋の命が終わったとき、一生に一度だけだ。最後の生命力を使って立派な花をビューンと立たすのだ。

ついこの間、嘉福さんの梅の木の下に、新しいコンニャクの芽が出ているのを見た。コンニャクを食べるだけだった僕でさえ、一歩踏み入れたら世界が広がった。子どもの頃から身近にあったコンニャクの作り方に興味のある人はどのくらいいるのだらう。僕は今年の秋、芋からできるコンニャクの過程を実際に見るのが楽しみになってきた。

(鏡村役場総務課広報担当)

ちぎりたての梅が並ぶ(日曜市)

たようだ。「今はコンニャクを作る時期じゃないきね……」。そうか、コンニャクの花は五月だったが、作るのは秋だった。

ある土曜日、艶子さんの倉庫で、日曜市に出すための梅を選別しているのを見ながら話をしていると、嘉

福さんが、ちぎってきたばかりの梅が、いっぱい入っているコンテナを持って倉庫に入ってきた。「梅雨の意味って知っちゃうかね?」。そうか、梅ができる時期の雨か……。

昔々、杉本さんの祖先は六月の初め頃、梅を担いで上大利から高知市の円行寺を通って町まで歩いて行き、高知城に近づいたら、「梅は、梅は」と歌いながら売り歩いてきたそう。時代が移り変わり、歩いて行っていた人が、そのうち馬になり、リヤカーになり、そして今では軽四のトラックに変わり、日曜市まで商品を運ぶようになった。

梅を選別しながら一匹の蚊が艶子さんの額に止まった。「はようたたいて」と目をつむり、嘉福さんがすつと彼女の額をたたき、蚊が落ちる。何となくこの二人はうまくバランスが取れている。

嘉福さんは元々農業をやっていたが、何十年前に高知市内でガソリンスタンドの経営を始め、今も続けている。日曜日は休みなので日曜市へ艶子さんを送り



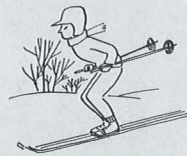


山はスキーに温泉・キノコ④

ユニークな湯に行く②

カムイワツカ湯ノ滝(北海道)

大森義彦



およそ全国数ある温泉のうち、ユニークさ、そして壮大さではここに勝るものはないと断言してはばからない。数百坪にわたってなんと谷全体が温泉なのである。林道から連続する滑滝をジャブジャブ登って行く、次第に足元があつたかくなってくる。なお、滑滝とは傾斜した岩盤の上を水が流れるもので、滝を緩くしたものだと思えばよい。

そして二十分ほどすると滑が滝に変わって滝壺が現れるが、ここまで来ると水温も上昇して適当な温かさになっている。さらに上方にも滝が連続し、数多い滝壺はいずれも天然の湯舟となつていてというわけである。

滝壺の深い所は二層ほどもあり、中央部では立ち泳ぎしながらの入浴となる。足が立たない風呂というのにはさすがに初めての経験だ。僕が一人つかつてるところへ若者が一人

やつて来たのでいたずら心を起こし、すました顔で中央で静かに立ち泳ぎをしていると、彼はいきなりドボンと飛び込んだ。たちまち全身水没してしまい、慌てて浮き上がって一言「深い」と叫んだ。僕は横を向いてそっと笑った。

落下地点へ泳ぎ着けば、そこはまた迫力溢れる打たせ湯である。打たせ湯といえは普通は肩や腰に湯を当てるのだが、ここでは全身打たせ湯とすることもできる。もつとも、大量の湯が落下しているのだから凄いい水圧で、全力で岩にへばり付いていなければならぬ。そしてそのうち力尽きて滝壺に落とされてしまう。

滝をいくつも登って行くと、やがて尋常の手段では溯行不可能となるあたりで、谷は二股に枝分かれしており、向かつて左側から熱湯、右側からはぬるま湯が落下していて、二つ合わさって丁度適温となるのだか

湯けむりの中でのんびり、ゆったり(写真北海道十勝岳温泉)



ら、うまくしたものだ。

この湯のもう一つの特徴は強い酸性泉であること。レモン汁のごとき酸っぱさは蔵王温泉とよい勝負である。大きな滝壺では泳いだりもしたものだから目が痛くなり、ごろごろした感じがしばらくとれなかった。

これは知床半島の先端に近い部分のオホーツク海側にある。ごく最近までは秘湯中の秘湯だったが、知床林道というのできて滝の下まで車で行けるようになって、夏場はびっくりするぐらい多くの人が訪れるようになった。かく言う自分もその一

人で、僕が行ったのは混雑を避けようと午後遅く遅くなってからだが、それでも予想外の入浴に驚いたものだ。それも若い男女ばかりで、おじさん・おばさんはほとんどいなかった。さらにもっと驚いたのは入浴を終えて車に戻った時にも、まだ来る人がいることだった。

あたりは薄暗くなりかけていた。上に残っている人はもういない。そこへ大阪ナンバーの乗用車がやって来て、若者が数人降りてきた。そこで「これから行くのか」と声をかけると、「そのつもりや」という答え。懐中電灯を持っているか聞くと、何もないと言う。「これから行ったら途中で暗くなっちゃうよ。それに熊も出るかもしれないし」とおどかさず、彼らは「せっかく来たのに」とか言っていて、そう簡単に引き返しそうな感じではなかった。こちらにも止める権利はないし、「行かない方がいいと思うけど」とだけ言い残してその場を去った。

彼らが行ったのか断念したのかは分からない。以後しばらくニュースに気をつけていたが、あそこで人が熊に襲われたという話は聞いていないから無事には違いない。

おおもりのよしひこ・高知大学
教育学部教授

ニューヨーク通信②

芸術と教育のあいだで

奥山 緑

アメリカの非営利芸術団体のマネジャーたちの間でいま一番ホットな話題は「芸術教育」だ。この背景には、八〇年代の一時的な観客数の落ち込みと、何の芸術教育も受けずに大人になる人が将来人口の四分の一程度を占めるだろうという予測に芸術関係者が抱いた危機感がある。

九七年の全米の八年生を対象とした教育統計センターの調査によると、音楽の授業がある学校に通っている生徒は七二%、美術は六四%、日本のように音楽と美術が全学校で教えられているわけではない。

独自色を出したいクリントン政権が教育重視の流れに乗ったという見方もできるが、ともかく九四年に現政権は、ヒラリー夫人を名誉総裁にした「芸術と人文のための大統領委員会」と二〇〇年までに芸術教育を教育課程の核に取り戻そうという「芸術教育パートナーシップ」プロジェクトを発足させた。芸術教育は、連邦および州政府(教育は基本的に

は州の管轄)、芸術と教育、両界の非営利団体や財団などを巻き込んだ大きなうねりとなった。

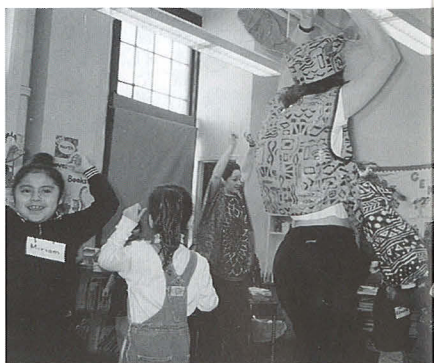
注目されるのは、音楽と美術以外に、「演劇」と「ダンス」を授業に取り入れている学校もあるということだ(演劇は一五%、ダンスは一〇%。同調査)。ここニューヨークは舞台芸術家がゴマンと住む大都会。この街の強みを生かした、「演劇を使って教科を教える」という一風変わった試みを紹介したい。

クリエイティブ・アーツ・チーム(Creative Arts Team)通称CATは、一九七四年に創設された演劇教育専門の非営利プロ劇団。「演劇教育」に創作劇、鑑賞教室などいくつもジャンルがある中で、CATの専門はTheatre-in-Education通称TIE、日本語にするなら「教育における演劇」だ。教室を訪れる劇団員が対話式の演劇ワークショップを通して、子どもに道徳、数学、理科、社

会、健康管理など、ほかの教科を教える。見る、演ずるだけではなく、即興的なやり取りの中で、子どもが自分の考えや感情を、自分の言葉で発言するよう励ますスタイルを取る。こと、プロの俳優による授業であることがTIEの特徴だ。

ブロンクスのP・S(公立小学校)83で一年生の授業を観察した時のこと。この日の芝居はアフリカを舞台にした『太陽からの贈り物』。目標は、アフリカの文化に触れることと、チームワークの意義を学ぶことだ。「僕たち、みんな、君が落としたアフリカの仮面を見つけたのさ」と大声を上げる子がいる。彼の回転が速く普段は同級生にちよつかいをだしては先生に怒られている男の子。怒られてばかりのエリックも、ここでなら安全なフィクションの中で自由に自分を表現できる。喜びが彼の顔にあふれている。ピカンの言葉「子どもはすべて芸術家だ」を実感。

自分の存在を励まされ、その大切さに気づくことから、他人を思いやる気持ちが生まれる。自己と他者の異なりに気づき、「それぞれ」が生



CATの演劇ワークショップ(P.S.83にて)

命を充実させて生きる。これらを、いまここに生きている人間との関わりの中で学ぶという意味では、演劇は十分に子どもを支える一助となり得る。TIEの授業を見て、演劇教育の本質は、個としての人間を励ますことにあるのだと思に至った。

教育、芸術、さらには心理学のプロが「芸術教育が子どもの発達にどのように役立つのか」を、ジャンルを越えて研究し、モデルを作っていく動きが日本でも出てこないものかと思う。子どもの「生きる力」が教育のテーマになっている日本で、いま教育、芸術のプロがすべき仕事は多い。

おくやまみどり・舞台制作者。
セゾン文化財団国際奨学生として
コロナビア大学ティーチャー
ズ・カレッジ、芸術経営学科に
留学中



散歩の途中で

城西中学校前の大膳町公園内に珍しい形をした碑が建っている。パレットの形をした碑には「日本西洋画の祖 國澤新九郎生誕の地」とある。新九郎は、明治3年に法律修業のため渡英したが、西洋画に魅せられ洋画家となり、帰国後は日本で初めての西洋美術展を開催するなど、その普及に努めた。そうした彼の功績を讃え有志が建立したものである。政治家、思想家などの碑は多いが芸術、文化の先覚者の碑は数少ないだけに貴重な存在となっている。

賛助会員募集中

会費：年額 2,000円
 特典：① 機関誌「文化高知」を年6回お手元にお届けします。
 ② 事業団発行の出版物の10%割引（一部例外あり・直接事業団で購入する場合に限る）
 ③ 主催事業や刊行物の案内（マスコミ利用の場合あり）
 【※お申し込みの日から1年間有効】
 お申し込み：①郵便振替②現金書留③直接事業団へ…
 いずれの方法でもけっこうです。

土佐自由民権運動史

外崎光広 著



A5判・上製本・424頁
 本体価格 2,719円

著者の四十年に及ぶ研究を集大成。新資料による知見も盛り込みながら、土佐自由民権運動の全容を通史として明らかにした。

高知県文学散歩

岡林清水 著



四六判 278頁
 本体価格 1,748円

高知県の文学を地域に即して紹介、その舞台、歴史、作家の足跡等を訪ねて歩く「旅のなかの文学史」ともいえる文学案内。

今号の表紙

「青い橋の記憶 No.2」 山本恭子

なぜ人は今ここに在るの？ 地球や宇宙はどうして在るの？ 様々な便利な物や高度な技術を人は考え創り出す。でも、その材料は？ 源は？ 九反田のこの青い橋に焼夷弾が落ちたがやと。その跡がこれやと。えっ？ そうなが！ そんな話を聞いて描いてみました。戦後生まれの私達は戦争の苦しみを知らない。物事は変化するけれど大切な事は昔も今も未来も同じはず……。 (やまもときょうこ)



高知を撮る トンボ採り (昭和32年 比島町) 岡田文夫

第15回写真コンテスト入賞作品

当時はトンボも多く、夏休みには子どもたちがトンボ採りに熱中していた。トンボ網は、伏せて捕る独特の形をしていた。後方に見える山は、今はなき比島山である。

風俗

どっちでもなくても

えて、簡潔・明快に紹介されている。子どもの権利条約が話題になるたびに、きまってる思い出す名訳がある。国連総会で採択されたこの条約には、日本政府による訳文があるが、それがお役所式の悪文で、おとなにも理解できない箇所

5月中旬、「広げよう子どもの権利条約」と題するシンポジウムが開催された。当日、テキストに使われたのは、異教養発行の解説冊子、「みんなで学ぼう 子どもの権利条約」。小学生用と中・高生用の二冊に分かれていて、条約の要点が、カラーイラストを添

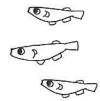
この「どっちでもなくても」によって、差別的な俗称を使わずに、へ性同一性障害者などを、サラリと擲り上げている。巷には、学者や、翻訳家による、迷訳・誤訳が氾濫している。子どもによる、子どものための、この優れた訳書に盛大な拍手を贈る。 (一)

が多い。そこで、ある人権擁護組織が、平明な翻訳を公費し、さまざまな年齢、職業の人びとから寄せられた630もの作品の中から、中学2年の女生徒二人の共訳が選ばれ、出版された。

私が感じ入ったのは、「児童は、人種・皮膚の色、性、言語、宗教……によって差別されることはない」という条文中の「性」の訳文。「男でも、女でも、どっちでもなくても」

メダカ

風俗歳時記



「メダカよ、お前もか」。カワウソンのたどった道を、思わぬ生き物が歩んでいる。見掛けだけの緑に幻惑されて、「自然が一杯」などと喜んでいられる時はなさそうである。自然界の生き物は、水槽の中の生き物のような、単純な生活はしていない。春から夏、餌の多い田んぼで過ごしたメダカは、田んぼが干上がる前に小川に移動して冬を過ごす。そして翌春、再び田んぼに戻ってくる。田と川が隔離されていたり、両者の落差が大きければ、夏の生活の場に移動することができない。田も小川も稲や水があるだけではない。無数の生き物たちが複雑な関係を保ちながら生き長らえている。一見無駄な「書虫」や「雑草」が、おたがいに、さまざまな影響を与えあっている。一つの社会をつくっている。

我が国では、メダカを使って、多くの優れた研究が行われてきた。その中には本県出身の岩松鷹司教授（愛知教育大学）のお仕事も含まれている。 (略)

メダカは、田んぼが干上がる前に小川に移動して冬を過ごす。そして翌春、再び田んぼに戻ってくる。田と川が隔離されていたり、両者の落差が大きければ、夏の生活の場に移動することができない。田も小川も稲や水があるだけではない。無数の生き物たちが複雑な関係を保ちながら生き長らえている。一見無駄な「書虫」や「雑草」が、おたがいに、さまざまな影響を与えあっている。一つの社会をつくっている。

人工林を守るというのでは、ちよつと待てよ、といったくなる。広葉樹があり、虫や鳥が遊ぶ自然の中にこそ針葉樹も健やかに育つに違いない。農業、林業、水産業などは、旧来の方式から、最先端の「バイオテック」まで、しよせん生き物の力にすがっての生産である。生き物には四十億年の「おきて」があり、おきてに背くものは、それ相應の報いを覚悟せねばなるまい。メダカの希少生物化は、合理化のみを追求する農業への何よりの警鐘であろう。ところで、メダカはアジアの稲作地帯だけに住む魚であるが、MEDAKAという名前前で世界的に知られている。これは、メダカが生物学の研究材料として有用であるためで、日本語がそのまま英語になった点ではメダカはゲイシャに匹敵する。



市民フロア

個展、会議にご利用ください。場所は、はりまや橋デパートターミナルビル（からくり時計のあるビル）5階です。

- 広さ・内装 約96㎡、壁面布クロス張り、スポットライト完備
- 使用時間 展示 9:00～18:00 / 会議 9:00～21:00
- 使用料

展示	1日(9時～18時)	11,000円
	1週間	70,000円
会議	9時～12時	4,000円
	13時～17時	5,000円
	17時～21時	5,000円

- 休館日 毎週水曜日（搬入搬出日）、年末年始

※お問い合わせ／(財)高知市文化振興事業団 ☎873-4365

全国へ情報発信

ホーム ページを 開設



文化振興事業団では、全国への情報発信をめざして「インターネット」のホームページを開設しました。

■内容

市民参加ミュージカルなど事業団の活動内容や出版物、都市美デザイン賞など事業団が設けている顕彰事業の受賞作の紹介、「土佐方言」紹介コーナーがあります。事業団の出版物や賛助会員へのお申し込みもできます。

■アドレス

<http://www.i-kochi.or.jp/hp/bunshin>

※ホームページへのご意見・ご感想を電子メールでお寄せください。

E-mail:bunshin@mail.i-kochi.or.jp

出／版／案／内

高知市文化振興事業団 編

高知のエスプリ

ふるさとの未来を^あ考える

県内のオピニオン・リーダー五十人が、各々高知へのあつちい思いを語る。「文化高知」巻頭文からカットとともに収録した。
A5判・一六〇頁 本体価格一、二六五円

高知市文化振興事業団 編

わがまち百景

21世紀に伝えたい高知市の風景

高知市の誇りとして残したい風景を百カ所選定し、百人の随想と写真で紹介。様々な視点からの素晴らしい高知が実感できる。
A5変型判・三四頁 本体価格一、一六五円

高木啓夫 著

土佐の芸能

高知県の民俗芸能

現存する土佐の民俗芸能をくまなく収集し体系化。それぞれを神楽・獅子舞・地芝居・太鼓踊り・民謡等に分類し、詳説した。
B5変型判・上製本・三四六頁 本体価格四、八〇〇円

清水孝之 著

中山高陽

土佐の生んだ江戸文人画の祖中山高陽の業績を明らかにした労作。資料として未発表のものを含む書簡集・年譜等を収録した。
A5判・上製本・三三二頁 本体価格三、八〇〇円

土居重俊・浜田数義 編

高知県方言辞典

古語から現代語にいたる土佐言葉一万四、七〇〇余の意味、用例、使用地点等を明示。注釈も加えた土佐方言唯一最大の辞書。
A5判・上製本・七三六頁 本体価格六、〇〇〇円